

長野県の5つの国立銀行

トピック(テーマ)		長野県の5つの国立銀行	
ねらい		1896(明治29)年まであった国立銀行(国法によって立てられた銀行)とは、1872(明治5)年、伊藤博文大蔵少輔のもとで国立銀行条例により設立された国が設立した銀行ではなく、民間資本によって設立・経営された銀行である。第1、第2と設立順にナンバーがつけられた。その数153行。長野県では、第14国立銀行(松本町、1887年開業、以下同様)、第19国立銀行(上田町、1877年)、第24国立銀行(飯山町、1877年)、第63国立銀行(松代町・稲荷山町、1878年)そして第117国立銀行(飯田町、1880年)の5つの国立銀行がそれぞれの地域の経済の中心地に開業した。基幹産業であった蚕糸業と土族授産政策のかかわりなどを背景に国立銀行は、地域産業の盛衰とともにあゆみながら地域を支えていた。その姿をみる。	
キーワード		第14国立銀行 第19国立銀行 第24国立銀行 第63国立銀行 第117国立銀行 大池源重 早川重右衛門 坂本則敏 吉池文之助 太田伝蔵	
概要を知るためのツール	1	書名	八十二銀行史
		著者名	株式会社八十二銀行
		出版社	株式会社八十二銀行
		出版年	1968
		内容紹介	5つの国立銀行がどのような立地条件のもとに作られたのか、発起人はどのような人たちであったのか、金融業の仕方などについてコンパクトに記述されている。「3 国立銀行の創立と経緯」
資料リスト	1	書名	長野県史 近代史料編 第6巻「商業・金融」
		著者名	長野県史刊行会
		出版社	長野県
		出版年	1990
		内容紹介	「国立銀行」の項で、5つの「国立銀行創立願」や『銀行日誌』、「定款」、「実際考課状」、「開業免状」などの史料が72頁にわたり収録されている。
	2	書名	飯山市誌 歴史編 下
		著者名	飯山市誌編纂専門委員会／編
		出版社	飯山市誌編纂委員会
		出版年	1995
		内容紹介	153国立銀行の中で最初の破綻となったのが第二十四国立銀行だった。同銀行の設立とその発展、そして破綻の経過が「第三章 交通・通信の発達と商業」の「第二節 商業の発展」の「三 銀行の設立とその発展」の項で記述されている。
	3	書名	金融恐慌と第十九(国立)銀行
		著者名	小平千文／著
		出版社	上田小県近現代史研究会
		出版年	1998.11
		内容紹介	(株)八十二銀行の前身銀行、そのあゆみ
	4	書名	第十九国立銀行創立證書定款申合規則
		著者名	第十九国立銀行
		出版社	第十九国立銀行
		出版年	1977
		内容紹介	定款

長野県の5つの国立銀行

雑誌	1	論題名	長野県における国立銀行の生成
		著者名	三井高茂／著
		雑誌名	信濃
		出版年	1996
		巻号頁数	第18巻12号
		概要	第十四・第十九国立銀行の「設立前後の事情を中心に、その性格を規定」した
	2	論題名	第百十七国立銀行論補遺
		著者名	林健久／著
		雑誌名	伊那
		出版年	1985.11
巻号頁数		通巻第690号第33巻第11号	
インターネット	1	サイト名	信州地域史料アーカイブ
		URL	<a href="https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2000515100">https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2000515100</a>
		概要	「第十九国立銀行」で検索すると関係資料を見ることができる
	2	サイト名	国立公文書館デジタルアーカイブ
		URL	<a href="https://www.digital.archives.go.jp/">https://www.digital.archives.go.jp/</a>
		概要	「国立銀行」で検索すると関係史料を見ることができる
	3	サイト名	長野県立歴史館(文献史料) 収蔵品データベース
		URL	<a href="http://jmapps.ne.jp/npmh_bunken/index.html">http://jmapps.ne.jp/npmh_bunken/index.html</a>
		概要	「国立銀行」で検索すると関係史料を見ることができる
		4	サイト名
	URL		<a href="https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html">https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html</a>
	概要		「国立銀行」で検索すると関係資料を探ることができる
新聞	1	見出し	時代を駆ける(6) 量造を支えた商人 豪農
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊12ページ
		年月日	1996.6.27
コメント		「八十二銀行資料室」の所蔵史料閲覧は欠かせない。	